



尿中アルブミン(腎機能/尿検査)

アルブミン (尿中アルブミン)

<p>意義</p>	<ul style="list-style-type: none"> 糸球体障害の有無や重症度の指標となる 糖尿病性腎症の早期発見に微量アルブミンの検出が必要である 高血圧で高値となる
<p>正常*</p>	<p>30mg/gCr未満</p> <p>※尿中アルブミンは微量であり、生理的条件の影響を受けやすいため、随時尿の場合は、クレアチニン濃度で割ったアルブミン指数が用いられることが比較的多い</p>
<p>異常値で疑う疾患</p>	<p>糖尿病性腎症(特に蛋白尿が陰性の初期の段階から検出されるため早期診断に有用)、SLE、アミロイドーシス、高血圧、うっ血性心不全、慢性糸球体腎炎など</p>
<p>服薬指導に活かせるポイントなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> 腎疾患の可能性があるため、腎排泄型薬剤の用法用量調節が必要である 尿蛋白同様に運動後、発熱時などに高値を示す可能性があるため、検査前条件の確認と再検査の勧めが必要である